



担当=DZHフィナンシャルリサーチ・石原敬子

トムソン・ロイターのフィナンシャル・リスク部門の名称はRefinitiv(リフィニティブ)に変わりました

知りたい
投信 なるほど
リップパー

6月までの運用成績

コロナショックの勝ち組投信は

各国の株式市場は、コロナショックで3月に安値をつけた後、回復しています。今回は6月末時点の投資信託について、過去3カ月の騰落率をまとめました。短期間の集計はマネーゲームを誘うようで、「息の長い投資を続けて欲しい」という私の気持ちとは異なりますが、値戻りしている投信を見るためです。

大きい表は、純資産残高が10億円以上で上場投資信託(ETF)以外のオープン投信の運用成績です。今年4月～6月は、株式型の多くが2ケタの上昇率。ただ、数字の中身は異なるようです。

騰落率が株式型でトップは「業種別 IT(情報テクノロジー)」。外出自粛が好材料となり、表にはありませんが6カ月の騰落率も11.66%と大きく上昇しました。株式

型の「業種別 ヘルスケア」や債券型の「グローバル 日本円」は値動きが小さく、安定性を発揮。これら二つの分類は、上昇率は小さめですが、半年前に比べても値上がりしています。

ところが、そのほかの主要分類はすべて、直近3カ月では値上がりしていても、6カ月前には戻っていません。コロナショックの勝ち組は「IT関連株」、守りが強かったのは「ヘルスケア株」と「円建て債」といえるでしょう。

5年間の騰落率では、成長力のある投資対象が強く、債務リスクの高い投資対象が弱い構図が浮かびます。個別の投信も、成長企業の株式で運用する投信が好成績＝小さい表。なお今回も、騰落率ランキングでは、オルタナティブ型の投信を除外しています。

■投信主要分類別の平均騰落率 (2020年6月末時点)

投資対象 (リップパーによる分類)	過去3ヵ月 (%)	過去5年 (%)	
株式	業種別 IT(情報テクノロジー)	30.56	75.42
	日本 中小型株	25.52	47.90
	インド	20.26	-13.42
	グローバル 新興国	19.29	-3.27
	米国	18.99	37.55
	グローバル	18.91	11.20
	グローバル 除く日本	16.92	19.52
	業種別 ヘルスケア	16.46	6.05
	日本	15.79	9.21
	業種別 公益	3.42	3.95
債券	豪ドル	12.19	-6.40
	米ドル ハイイールド	9.28	-5.74
	グローバル 社債 日本円	8.35	2.11
	グローバル 日本円	3.35	0.86
	日本円	-0.43	4.96
ミックスアセット	日本円 積極型	9.72	7.61
	日本円 バランス型	7.75	5.26
	日本円 フレキシブル型	7.03	1.29
リート	日本円 安定型	4.76	4.09
	リート グローバル	9.70	-8.45
	リート 北米	7.33	-1.81
	リート 日本	5.57	6.10

を再型純
積投を積
極資を除
型し、た
、たオ
35とー
くして
65%を
を計算
を。に
バラン
ミッ
ス型、
アセ
0セ
くッ
35%は
を安
定型
と割
して
65%
を
100%
をブ

■運用成績トップ5 (2020年6月末までの5年間)

順位	ファンド名	騰落率(%)
1	DIAM新興市場日本株ファンド(アセットマネジメントOne)＝申込受付を停止中	168.47
2	東京海上・ジャパン・オーナーズ株式オープン	154.26
3	SBI中小型成長株ファンド ジェイネクスト	131.42
4	新成長株ファンド(明治安田)	122.37
5	netWIN GS テクノロジー株式ファンドA(為替ヘッジあり)	119.92

純資産残高が10億円以上のオープン投信で、上場投資信託(ETF)とオルタナティブ型を除く。騰落率は分配金(税引き前)を再投資したとして計算